

## トップメッセージ

# 「進取の精神」に基づくあくなき挑戦と 誠実な企業活動をもって 皆様の信頼にお応えし、 快適で豊かな生活の実現に 貢献してまいります。

### 企業理念に基づき、 社会への責任を果たします

OKIは、2011年11月に創業130周年を迎えました。創業者の沖牙太郎は、1881年(明治14年)、グラハム・ベルが電話機を発明したわずか5年後に、日本最初の通信機器メーカーである明工舎を設立、電話機の国産化に挑戦して、今日のOKIグループの礎を築いております。私たちは、この創業以来の、「新しい技術で新しい事業を興す」「世の中を便利にしたい」という強い意志を受け継ぐ企業理念“OKIは「進取の精神」をもって、情報社会の発展に寄与する商品を提供し、世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献する。”を、OKIグループの考える「企業の社会的責任(CSR)」の根幹としております。

### 商品・サービスを通じ、 社会に貢献します

OKIグループは、この理念のもと、商品・サービスを通して社会に貢献することを使命としてきました。社会のニーズの的確な把握、要素技術・製造技術の確立とともに、お客様にご満足いただける品質を作りこみ、ご

提供し、長年安心してご利用いただくための保守体制を維持するという、「営業、技術、生産、保守一体」の活動を積み重ねた成果として、今日ではキャリアの通信インフラや金融機関向けの営業店システム、ATM、そして防災システムをはじめとしたさまざまな公共システムなど、社会のインフラを供給・維持する重要な役割を担っております。

変化の激しい時代にあっても引き続きお客様、そして社会の期待にお応えしていくため、2011～2013年度を対象とした中期経営計画においては、

- ・情報社会の発展に寄与する商品・サービスを提供する営業・技術・生産・保守一体となった行動
- ・安定した収益を創出し、確実に成長する企業をめざす

という二つの方針のもと、成長に向けた取り組みを加速しております。これまでの取り組みにより築いた堅固な経営基盤を土台に、グループ連結経営への変革、モノづくりの強化、サービスビジネスの強化、そして特徴ある技術をベースとした新規事業の創出に取組み、皆様の快適で豊かな生活の実現に貢献してまいります。



沖電気工業株式会社  
代表取締役社長

## 川崎 秀一

### グローバル企業として 責任ある経営を推進します

OKIグループは責任ある経営を推進するため、コーポレート・ガバナンスの強化に努めるとともに、CSRを果たすための体系を整備し、グループの全企業が共有すべき価値観である「OKIグループ企業行動憲章」、そして全役員・社員がとるべき行動の規範「OKIグループ行動規範」を定めて、国内外すべてのグループ企業に徹底を図ってまいりました。

さらに2010年には「国連グローバル・コンパクト」に参加し、グローバル・コンパクトの掲げる人権・労働・環境・腐敗防止にかかわる10の基本原則に照らして、CSR活動の一層の強化を図っております。引き続きグローバル企業として果たすべき責任を的確に認識し、持続可能な社会づくりに貢献できるよう取り組んでまいります。

### 「OKIグループ環境ビジョン2020」に 則り、より良い地球環境の実現に 貢献します

このような視点から、いまOKIグループが考える最も重要な企業活動の一つが、環境負荷低減への積極

的な取り組みです。OKIグループは2012年4月、グローバルな環境課題を踏まえてよりよい地球環境の実現に貢献すべく、グループの環境経営の方向性を示した「OKIグループ環境ビジョン2020」を策定いたしました。「低炭素社会の実現」「汚染の予防」「資源循環」「生物多様性保全」の4つの分野で2020年の目標を設定し、事業活動および商品における取り組みを強化してまいります。

2011年は、3月に発生した東日本大震災や10月のタイにおける大洪水、それらに端を発したサプライチェーンの寸断や電力不足、さらには欧州経済の悪化や円高など、内外で大きな環境変化が生じ、企業にとって持続可能性、社会的責任を考え直す契機となった年でした。こうしたなかで創業130周年を迎えたOKIグループは、この節目をゼロからの新たなスタート、第二の創業ととらえ、あらためて原点である「進取の精神」に立ち返り、誠実な企業活動を通じて、さらなる企業価値の向上を図ってまいります。この「社会・環境レポート2012」を通じ、一人でも多くのステークホルダーの皆様へOKIグループの取り組みをご理解いただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2012年6月